

# 令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

## 学校法人緑ヶ丘学園 緑ヶ丘第二幼稚園

### 1.本園の教育目標

本園では、じょうぶな身体、やさしい心、ゆたかな感性をもった子どもをめざして、健康・安全な習慣や態度や自立心を育て、ひとに対してやさしいおもいやりを持った子、また感性・創造性豊かな表現を楽しみ、色々な活動を通して得た感動を素直に表現できる子を三本柱に、人格形成の基礎を培う幼児期の発達段階を考え、バランス良く発達するように、家族との連携を十分図りつつ、社会や家庭の要求と個々の子どもの興味関心発達の実態に合わせた無理のない計画を立て、環境構成に留意し、遊びを展開していく為に、必要な適切な指導援助を工夫して行うように努力する。また、常に結果よりも過程に注目して、一人ひとりの個性を認め援助し伸長する。

### 2. 本年度の重点的に取り組む目標・計画

- ①やさしい心を育む
- ②確実な危機管理を実行する

重点的に取り組む目標	評価項目	評価指標 及び 評価結果						コメント			
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果	総括評価	評価結果に関する意見等		
やさしい心を育む	一人一人の発達に応じた接し方	4	自分の思いを言葉や行動で伝える場を設ける	3.6	4	自分から自発的に会話を通して人と関わるようになる	3.1	3.4	毎日一人一人に声をかけ、子ども同士でも発表する機会を設けた。その中で、教師も気付きや発見が多くあり、子どもとの会話が今まで以上に、楽しくなった。		
		3	一人一人の発達に応じた接し方・声かけをする		3	先生との会話を楽しむようになる					
		2	はっきりと子どもに伝わる言葉で丁寧に話しかける		2	先生とのかかわりを喜ぶ					
		1	一人一人個別に声をかけるように関わる		1	先生の言葉・声かけを聞いてうれしくなる					
	信頼関係を つくる工夫	4	自分の意見が言え、相手の気持ちも考えられるよう見守る	3.6	4	思いやりの心が育つ	3.3	3.5		クラスの中だけでなく、他学年の子どもや先生と関わる場を多く作り、たくさんの人と触れ合うようにした。その結果、自分の事だけでなく、友達の事も思いやれる様になり、子ども同士で助け合う姿が多くみられた。	
		3	異年齢交流や地域の方との交流をする		3	色々な人と関わり、自発的に人を思いやれるようになる					
		2	名前を呼んで話しかける機会を多く作る		2	友達の名前を知り、お友達に関心をもつ					
		1	先生や友達と安心して過ごせる環境を整える		1	友達と一緒に遊ぶ					
確実な危機管理を実行する	登降園の手段・出欠の確認管理	4	職員間で共有する	3.4	4	保護者の安心・信頼につながる	2.3	2.9	欠席やバスの連絡等を、受けた人が確実に伝達するように心がけた。しかし、全体的にみると、共有出来ていないと感じたので、来年度はより良い方法を模索し改善していきたい。		
		3	確実に伝わったことをチェックし確認する		3	伝言、伝達のミスがなくなる					
		2	記録したことを放送機器を用い複数の職員と共有する		2	複数の職員で共有することで情報が拡散される					
		1	変更や欠席等必ず記録する		1	誰もが目で見て確認できる					
	保育環境の整備	4	危険な場所の改善	3.4	4	子どもの怪我が減る	3	3.2		子ども達同士で、危険な場所を教え合ったり、声をかけたりするようになった。月一回の安全点検日の結果を受けて、少しずつ工事が入り、年度末に工事が完了した。	
		3	危険な場所の点検・対策をする		3	子ども同士で教え合う					
		2	危険な場所の共有・報告をし、記録する		2	危険な場所に気付く子どもが出てくる					
		1	危険な場所の確認を子どもと一緒にする		1	危険な場所を知る					
	不審者対策	4	学期に1回は訓練を行う	3.3	4	自分の身の守り方を知る	3.1	3.2			不審者対策の訓練を通して、子ども達は、自分の身の守り方について学ぶことが出来た。学期に一回の取り組みは難しかったので、取り組み指標の再検討を行いたい。
		3	外部の人の訓練を教師と子ども一緒に受ける		3	先生の助言で身の危険を判断できる					
		2	教材を使って子どもたちに防犯教育をする		2	こわい所がどんな所かを知る					
		1	玄関出入りの際、クラス名前を必ず確認し開錠する		1	保護者と一緒に登降園するようになる					

4.幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果 評価 A:達成している B:一部達成している C:一部改善を要する D:改善を要する

評価	理由
A	子どもたちが安心して過ごしていける環境を整える中で、伸び伸びと園生活を送ることが出来、やさしい心を育みやすい環境になっていたと思う。

5.今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
伝達ミス	伝達ミスなどが無いように、曖昧な事は解決するまで確認する。一人一人がマニュアル通り、伝える。
不審者対策	不審者対策の訓練は学期に1回は出来なかった。次年度は取り組み指標を再検討したい。

## 6. 学校評価委員会からのコメント

本年度から評価項目を減少し、①やさしい心を育む ②確実な危機管理を実行する の2項目として実践している。①②ともに評価は良好であり、達成したと判断できるが、個々の教員によっては、まだ不十分であると判断している項目もうかがえる。

やさしい心を育むことに関しては、どの教員も共通理解と協力のもとに取り組みが実践できている。

危機管理の実行という点では、職員間で一致団結し、一人一人の命を大切にする指導ができている。

課題として、今後も不審者対策については、日常的にしっかり子どもたちを守れる体制を築いていかなければならない。

令和7年3月21日

学校法人緑ヶ丘学園 緑ヶ丘第二幼稚園

学校評価委員 署名

署名

署名